

訪日  
報告書  
WISET 交流プログラム、2014 年 3 月  
カナダ王立協会/日本学術会議

2014 年 3 月 5 日から 14 日まで、WISET プログラムの一環として、私の研究であるカナダの学会における女性の現状を紹介するとともに、人文社会科学分野の大学及び専門関係者と交流する機会を頂き光栄でした。私は 2012 年に人類学・民族音楽学者の博士号を取得し、人文科学分野の若手研究者らとの交流を始めました。今回の滞在は非常によく準備されて、たいへん刺激的で実り多いものであったことを強調したいです。おかげで、新規の長期共同研究への道が開け、私は 2015 年夏に研究のために再度滞日する予定です。

国立民族学博物館、関西外国語大学、文化財研究所、東京藝術大学を訪問し、東京にある日本ユダヤ教団のメンバーと会う機会に恵まれました。滞在中の週末、日本学術会議のご厚意で、事務局の細田 牧さんに大阪まで付き添って案内して頂きました。私にとって日本文化の伝統的及び近代的要素をよりよく理解できる最高の機会でした。

お茶の水女子大学を訪れた際、私は、「民族音楽学と人間応用科学におけるその役割」と題した講演を行いました。講演終了後、私は、特に日本社会及びカナダ社会における芸術の位置づけについて同大学の学生並びに研究者と数回にわたり意見を交わしました。学生たちは、音楽の研究に基づくさまざまな専門的可能性に関して自らの発見を述べてくれました。

3 月 13 日、木曜日、雅楽奏者がこの機会に招かれ、私はその大きな恩恵にあずかりました。この夕べの際に、私は、日本学術会議のメンバーと会い、人文科学部の大学教員や若手研究者のためのこうした交流プログラムの重要性について議論しました。確かに、日本の文化への興味から、対話や交流が非常に実り多いことを我々は実感しました。こうした経験は、女性の人類学者、社会学者、音楽学者、そしてより広く言えば人文社会科学の大学教員にとって研究現場で経験するのと同じような実体験となり得ます。

国立女性教育会館（NWEC）では、カナダの大学における女性の地位の進展の概観をご紹介することになりました。私は、母親、研究者そして大学教員としての自分の個人的体験もお話ししました。また職場における男性・女性の関係の問題も取り上げ、ジェンダー・ヒエラルキーに関して、我々の社会を構成するモデルが変化する中での個人の役割について議論を始めました。

#### 今後の訪日に関する提言

滞在期間の問題を検討すべきだと考えます。というのも、かなり忙しく過密なスケジュールなので、交流を深めるためには 10 日間に延長し、とにかくスピードを落とすだけの意味がこの滞在にはあると思います。単にカナダの女性の現状を報告するよりむしろ、NWEC のメンバーと会議を開くほうが興味深いかもしれません。私の発表が終わると、いくつか

の質問が挙がりましたが、議論を重ね、この分野における日本での具体的な取り組みを知りたかったと思います。

私は、カナダと日本の女性研究者のさまざまな学術交流が知られるようになり、後に参加する者がこの滞在を将来の計画の出発点として考えられるようにすべきだと思います。一方、日本を訪問するのに文化、言語及び規範に精通していないのであれば、私が出発前にしたように、来日前に準備し、少し日本語を習うのが最も重要だと思われます。こうした姿勢でいると、受入側との出会いがとても上手くいきます。私が会った人々は全て、カナダの文化にたいへん興味をお持ちでしたので、お土産はとても喜ばれました。

### プログラムに関する見解

WISET プログラムは、両国の女性研究者にとって、ネットワークを確立し、研究の基軸と意義に関して、しばしば自分たちとは非常に異なった経験を持つ専門家と知識を分け合うまたとない機会です。それはまた、互いの専門知識を共有し、若い女性の大学及び学究環境に対する興味を刺激し、増大させる手段でもあります。この滞在には更に、数多くの専門職の道が可能であることを若い世代に示すという目的もあります。私はまた、これがカナダでも日本でも学究環境における女性の地位の問題について男性がたに関心を持たせる手段であるとも信じています。

### 全般的な印象と謝意

この経験が、個人的にも職業的にも、私のキャリアの中で最も忘れ難いものの一つとして残るであろうことを強調したいと思います。滞在計画は見事でしたし、活動はこの上なく多様で、素晴らしい出会いに恵まれました。

そこで私は、この格別の経験を与えて下さった全ての方々、最初に、私がこの交流プログラムに応募することを支援して下さいましたリュシー・K・モリセさん、私の書類を選んで下さったカナダ王立協会、並びに初めて人文科学の若手女性研究者を受け入れる勇断を下された日本学術会議にお礼を申し上げます。

カナダ王立協会事務局のアメリア・ザグリユルさん、日本学術会議事務局の細田牧さん、ありがとうございました。お二人とも移動や旅行の編成と支援体制に関して最高でした。細田牧さんには忍耐強くご対応頂き、滞在期間を通じて大変お世話になりました。また日本社会と文化について話し合ったことが興味深く充実していたこともありがたく思います。また、私のメイン・ホスト（日本学術会議国際委員会日本・カナダ女性研究者交流分科会委員長）室伏きみ子先生のもてなしと寛大さを強調したいです。優れた民族音楽学者、徳丸吉彦教授と出会う機会と雅楽奏者の皆さんとの夢のような夕べを室伏先生が準備して下さいました。東京見物と大学訪問は、室伏先生のアシスタントの深澤桂子さん、後藤真里さん、塚原涼子さんのおかげで、たいへん快適なものとなりました。お礼を申し上げます。翻訳者の木田満里代さんと丸田アキコさんお二人も素晴らしい仕事をして下さいました。

---

<sup>1</sup>お茶の水女子大学名誉教授、お茶の水女子大学寄附研究部門教授（当時）

日本学術会議の以下の方々の支援に敬意を表します：日本学術会議会長 大西隆教授；国際活動担当副会長 春日文子先生；日本学術会議事務局次長 飯島信也さん；同事務局国際業務担当参事官、佐藤正一さん；同参事官補佐、中村典子さん；同参事官付専門職 金澤早智子さん及び細田牧さん。

2012年のシンポジウムの際にお知り合いになった寺田吉孝教授に国立民族学博物館で再会し、非常に興味深く、充実した時間を過ごしました。先々の共同研究や交流、並びに共に関わっている国際伝統音楽評議会の次回の会議（2015年）も話題に上りました。私は、日本の遺産の保存記録や民族音楽学の来歴について多くを学びました。世界の楽器に関する常設展示を見学して、身近な文化もそうでない文化もいずれも興味深いと気づき、非常に魅力的でした。

東京藝術大学の森義隆教授の職場にも非常に感銘を受けました。同大学の技術設備や機材（スタジオ、リハーサル室及びコンサート・ホール）は、優れた品質でした。お会いした時に、我々は、日本におけるメディア及びポピュラー音楽の位置づけ、レコード産業並びに社会学と人類学の歴史を取り上げました。お話をしていくうちに、少数民族が自文化をそれぞれのテーマで表す祭りがあることを知り、特に興味をそそられました。次回来日する際は、こうした祭りのいずれかの民族誌の記録・記述を行おうと思います。

国立文化財研究所を訪れて、私が現在研究している、さまざまな文化や文化圏における歴史的遺産の捉え方というテーマに相当な助けとなりました。久保田裕道さんと境野飛鳥さんには寛大なもてなしを受け、正確な情報を提供頂き、感謝致します。

また、在東京カナダ大使館のアルバート・リーさんとカエル・ハズバンドさんと好い関係が持てたことも強調したいです。彼らには、カナダと日本の研究者が交流するための各種支援プログラムを教えてくださいました。

皆様への感謝の念と共に、とりわけカナダ王立協会と日本学術会議にお礼を申し上げます。両主催機関のおかげで、今回の訪日が最適な状態で実現しました。

ジェシカ・ロダ

Stagiaire postdoctorale

Chaire de recherche du Canada en patrimoine urbain

UQAM : Université du Québec à Montréal<sup>2</sup>

---

<sup>2</sup> ケベック大学モンリオール校所属（当時）